

即成就院そくじやうじゆは深草ふかくさのひがし、大亀谷おほかめだににあり。本尊は阿弥陀仏の坐像なり。脇壇に二十五菩薩ともに恵心ゑしんの作なり。此

霊像は恵心僧都ゑしんそうづ叡嶽横川えがくよかはにおいて説法し給ふ時、壹人の老翁来り、われは都の南伏見里ふしみに住ものなり、一ツ斎を捧ん事

を乞ふ。恵心其詞に応じて伏見ふしみに至る。指月のほとりの草庵よりかの翁立いで、仏間に請じ、極楽浄土の宝味なりとて

捧しかば、僧都奇異の思ひをなし老翁は何人ぞと問ふ、答て我は仏在世にありし維摩居士ゆゑまこじの化現なり、師の法徳を感じ

てこゝに来る。恵心座を下りて拜し、冀ば正真の如来を拜せん事を願ふ。翁則西の空に向ひて敬礼しければ、忽然とし

て紫雲たなびき、音楽と共に本主阿弥陀仏二十五菩薩空中に現れ給ふ。漸あつて老翁諸とも西の天に飛去る。僧都感信

の余り、則来迎の相を自刻で当寺の本尊とし給ふ。又寿永の頃、奈須与一宗高なすのよいちむねたか平家追討のため出陣の時、当院に詣で祈

誓して曰、今度戦場において譽を得さしめ給へ、当院を再建すべしと。則ち仏前の幡を取て笠印とし西海に下り、壇だんの

浦うらにて扇的を射て名譽を天下に露す。是本尊の擁護なりとて、堂舎を修造し、願望成就の奇特を世に知らしめんとて、

即成就院じやうじゆあんとぞなづけける。

那須与一宗高石塔なすのよいちむねたかせきたふ〔堂の前にあり、高さ壹丈許にして無銘なり、笠石は垣の内にあり〕

軒端梅のきばのうめ〔塔婆のかたはらにあり、由来詳ならず〕